

オガサワラハンミョウ保護増殖事業計画

平成 27 年 4 月 21 日

農林水産省

国土交通省

環 境 省

オガサワラハンミョウ保護増殖事業計画

農林水産省
国土交通省
環境省

第1 事業の目標

オガサワラハンミョウは、ハンミョウ科に属する甲虫の一種で、かつては小笠原諸島の兄島及び父島で生息が確認されていたが、現在では兄島のごく限られた地域で生息が確認されるのみである。

本種は、比較的乾燥した台地に存在する安定した裸地環境に生息するが、モクマオウ、リュウキュウマツ、ランタナ等の外来植物の侵入による裸地環境の減少や愛好家による捕獲、父島におけるグリーンアノール及びオオヒキガエルによる捕食等の影響を受けて生息個体数が減少したものと考えられている。

本事業は、本種の生息状況等の把握とモニタリングを行い、その結果等を踏まえて本種の生息に必要な環境の維持及び改善を図るとともに、必要に応じて人工繁殖を実施すること等により、本種が自然状態で安定的に存続できる状態とすることを目標とする。

第2 事業の区域

東京都小笠原諸島における本種の生息地（かつて生息地であった地域を含む。）並びに第3の3における飼育及び人工繁殖等を行う区域

第3 事業の内容

事業の実施に当たっては、小笠原諸島が固有の島しょ生態系を有していることにかんがみ、島外から、外来種若しくは病害虫又はそれらを保持するおそれのある土壌、資材等を持ち込むことがないよう留意する。

1 生息状況等の把握

本事業を適切かつ効果的に実施するため、必要に応じて、次の調査等を実施する。また、この結果、生息状況に憂慮すべき変化が見られた場合には、原因解明のための調査を実施する等、本種の保存に資する対策を講ずる。

(1) 生息状況等の調査及びモニタリング

兄島の現在の生息地においては、本種の生息域、生息密度等の生息状況

を把握するための調査を行い、その動向について定期的なモニタリングを行う。また、かつて生息が確認されていた地域においても、再発見の可能性があることから、生息確認のための調査を行う。

あわせて、本種の自然条件下での生活史や繁殖様式等の生物学的特性の把握に向けた調査を行う。

(2) 生息環境の調査及びモニタリング

生息地及びその周辺における植生、地形、気象等の生息環境の変化を把握するための調査を行い、その変化について定期的なモニタリングを行う。

(3) 個体群の維持に影響を及ぼす要因の把握及びその影響のモニタリング

グリーンアノールによる捕食、モクマオウ、リュウキュウマツ等の外来植物の侵入による在来植生等の変化等、個体群の維持に影響を及ぼすおそれのある要因について把握するとともに、その影響についてモニタリングを行う。

2 生息地における生息環境の維持及び改善

本種が自然状態で安定的に存続するためには、台地上に広がる乾燥低木林内に安定した裸地環境が斑状に存在するという本種に好適な生息環境を含む生態系全体を健全に保つことが必要である。このため、本種の生態等に関する専門的知識を有する者の助言に基づき、1で得られた知見等を十分に踏まえた対応策を検討し、本種の生息に適した環境の維持及び改善のために、必要に応じて、次の取組を行う。

なお、本種の生息地における土地利用及び開発等の実施に際しては、本種の生息に必要な環境条件を確保するための配慮がなされるよう努める。

(1) 外来種等による影響の軽減

兄島において、モクマオウ等の外来植物の侵入による在来植生の変化等によって生息適地が減少することを防止するため、モクマオウ等の外来植物の防除を行う。

また、グリーンアノール及びオオヒキガエルは、父島での本種の絶滅に大きく影響したと考えられることから、これらの種の兄島への侵入の防止を図るとともに、兄島に侵入が確認されたグリーンアノールの防除を図る。

(2) 生息地等の巡視

生息環境の保全を図るため、生息地及びその周辺において巡視を行う。

3 飼育及び人工繁殖等の実施

本種の保存は、2の生息地における取組を基本とするが、生息状況の急激な悪化等により生息域内での種の存続が困難となる可能性を踏まえ、必要性

を十分に検討した上で、本種の生態等に関する専門的知識を有する者の助言に基づき、飼育及び人工繁殖を実施し、飼育及び人工繁殖技術の確立を目指す。

この場合、生息域外で保存される個体は、可能な限り野生復帰させることが期待されるため、野生復帰させうる資質を保つような飼育及び人工繁殖技術の確立を目指すこととする。あわせて、飼育下における生態的知見の収集にも努める。

さらに、2の取組だけでは、本事業の目標達成が困難と判断される場合には、増殖させた個体を本種の生息域内に野生復帰させることについて検討する。

4 生息地における密猟等の防止

本種の密猟を防止するため、生息地における監視や渡船利用者への密猟防止の普及啓発等を行う。また、個体の違法な譲渡し等についても、情報収集に努める。

5 普及啓発の推進

本事業を実効あるものとするためには、関係地方公共団体、各種事業活動を行う事業者、関係地域の住民を始めとする国民等の理解及び協力が不可欠である。このため、本種の保護の必要性、本事業の実施状況等に関する普及啓発を進め、本種の保護に対する配慮及び協力を働き掛けるとともに、関係地域の自主的な保護活動の展開が図られるよう努める。

特に、兄島へのグリーンアノール及びオオヒキガエルの侵入を防止するため、兄島に上陸する可能性のある関係者（関係地域の住民、研究者、シーカヤックやガイド船の事業者及び利用者等）への普及啓発を図る。

6 効果的な事業の推進のための連携の確保

本事業の実施に当たっては、国、関係地方公共団体、本種の生態等に関する専門的知識を有する者、本種の保護活動に参画する保護活動団体、関係地域の住民等、関係者間の連携を図り、効果的に事業が実施されるよう努める。